

## 【企業】2023年度外部評価 改善案

初年次教育課程

文責 水野真由美

記入年月日 2023年9月13日

社会人として基本的に必要な能力（コミュニケーション能力、対人関係能力、積極性、自主性）などが求められるとの指摘を多くいただいた。初年次としては、「学修基礎」の内容検討をすることで改善可能と考える。学生がそれぞれの授業の関連性を把握できるように、3つのスキル（アカデミックスキル、ソーシャルスキル、スチューデントスキル）について担当者間での連携をとるようにする。

企業人と接する機会については、「学修基礎」の授業内で卒業生による講演を実施してきている。「学修基礎」の授業以外にも、後期平常授業開始前のセミナーの企画として、講演の企画を追加する

社会人基礎の授業は現在1年次選択だが、次年度からは必修として全員に学ばせる。

服飾表現学科については、既に必修の「プレゼンテーション論」で、コミュニケーション能力についても授業内容に含まれているので、強化することとする。

講義科目、実習科目問わず、各授業においてもプレゼンテーションの機会を増やしていく。グループワークやディスカッションにより、コミュニケーション能力や対人関係能力を養う事にも繋がると考える。

服飾学科においては、モードテクノロジー系、ファッションビジネス系を希望する学生がいる。また、服飾表現学科、服飾文化学科と併せて3学科となったことで、学生の目指す将来像も多様である。しかし、初年次教育課程で共通する学びの重要性については、卒業生による講演から学生が学ぶことも多いので講演の意味はあると考える。一方で、卒業生に限定せずに、専門職について話を聞きたいという学生も多くいるので、今後、講演者について、選考依頼方法の見直しをすることも検討したい。

意見1：考え抜く力、思考力など※感覚（センス）での判断も必要ですが、なぜその結論なのか、そうするのがいいのか等、問題・原因・対策などや仮説検証などを行い分析するなどの力が低いと感じます。

現状・改善案：授業の在り方として、奇抜なものを考えるのではなく、テーマにあったデザインに対して考えを言語化することで、問題意識や考えを明確にし、論理的に考えられるようにする。改善案として、デザイン画を考えるにあたり、「なぜそう考えるのか、なぜそのデザインを制作しようとするのか」という考えを他者に伝える訓練を始めたい。

意見2：基礎的な『被服の基礎知識・製造のプロセス・流通・コスト』などの知識とともに商業デザインという考え方が薄いと感じる。特に、企画デザイン系の職種は、ブランドのコンセプトやテーマなどを踏まえコスト感なども考慮し販売できるかという観点が必要

現状・改善案：現在の課題には流通・コストなどというビジネス要素は含まれていないが、課題の中にビジネスとしての要素を加え、意識した作品制作を行う。また、実践的な学びにつなげるためには卒業生などアパレルの仕事に関わっている人などとも連携を取り授業展開を行いたい。

意見3：是非身につけて欲しい資質・能力：時流を捉える力。そのためにはファッション以外の分野にも幅広く興味を持ち、知識に貪欲になっていただきたいと感じます。その上で専門知識の吸収にも力を入れていただきたいです。

現状・改善案：ファッション以外のものにも興味を示してもらいたいと考え、美術館や博物館の情報はなるべく多く伝えるように今後も継続していく。

意見4：是非身につけて欲しい資質・能力：コミュニケーション能力・判断力。人の意見に耳を傾けながら意見をまとめ、1人でも最後までやりきる力

現状・改善案：グループワークをクラスに偏りがないように組み、前期から後期にかけ行っている。グループ内で意見が出せるように少人数で行い、コミュニケーションがしっかり取れるようにしていきたい。

コミュニケーション能力を上げるべきという提言が多い。そのため 2 年次から少しずつパターンについて解説出来るようにする。令和 6 年度のシラバスの内容を変更する。

企業によって専門知識の重要度は異なるが、多くの企業の共通点として、コミュニケーション能力がある方が良いという評価である。その点において、パターン検定以外にもプレゼンテーション能力を上げる科目を増やすことを改善案としたい。対象科目として感性産業 CAD I・II（大 3）演習の授業に縫製仕様書を取り入れ、制作作品を説明できるように資料をまとめ発表形式にする。専門知識の充実や検定導入に関しては、前年度までにある程度達成している。

対象科目

■感性産業 CAD I・II（大 3）演習

プレゼンテーションと情報共有の機会を増やす。自分で製作したトワルやサンプルを分析し、問題点や対策を考える。まとめの資料だけではなく、言語化し、プレゼンテーションをすることで他者へ伝える訓練を行う。

1. 学生が身につけるべき資質・能力について様々挙げていただいた中から、改善をしたい点は下記になります。

- ・コミュニケーション能力=思いやり=他己的であること
- ・仮説検証などの分析力、主体性

それぞれ頂いたご意見ですが、共通していると感じます。加えて重要視していない能力について「個人で完結する能力や実績、成果、創造性、独創性」とあります。全体の中でその知識が活かさなければ意味がないということだと捉えました。学生時代に共に作り上げ、物事を成功させる経験を積むことが必要かと考えます。

2. 教育課程の編成と教育方法～以下質問項目について、重要視した点は下記になります。

- ・素材の知見、
- ・学ぶ先を見据えることとそのアドバイス（学びが社会人としてどう活用されるか）
- ・商業デザインという考え方

テキスタイルデザインコースは主に川上が学修範囲です。川中から川下まで繋げる役目を感じていますが、常に全体を意識し、素材をとらえることが必要だと感じます。

①OB や OG、その他企業の方をお招きし、講演をいただく。また、産地・企業見学に行く。

知識を得るだけでなく、学びを振り返ることで学びがどのように社会につながるのかを考えると同時に企業研究をし、自分の能力や適性に合った職種を見つけるきっかけにする。講演について可能であれば他コースと共同実施し、コース外の分野に触れることで視野を広げる機会とする。

②グループワークを取り入れる。

共通の目的に対し、協力して作り上げる経験をする。役割を設け主体的に動き、互いの意見を尊重し進行することを経験し、成果確認と振り返りをする。教員や仲間とのディスカッションを通して、他者の意見を知るとともに自分の考えをまとめ、伝える経験をする。

③コンセプトやテーマなどを踏まえ、コスト感なども考慮したデザインができるようにする。

自己満足で終わらせるのではなく販売できるかという観点を持ちデザインする力を養う。

以上の3点を実施したいと思います。

企業からの頂いた意見の中で、①コミュニケーション能力 ②柔軟性と適応能（対人関係能力）  
③デジタルツールの必要性があげられていた。

① コミュニケーション能力

現在、実施されている共同制作において、チーム内での協力関係を築く上で、コミュニケーション能力の重要性に着目し、訓練につながる授業を続けている。

特にクライアントとのコミュニケーションの必要性を多くの企業が認識している。円滑にコミュニケーション能力を発揮し、自身のアイデアやビジョンを他者に的確に伝える能力を身につけることは極めて重要である。そのためには従来、3年次で行っている産学協同プロジェクトや4年次における卒業制作グループワークをさらに強化していく必要があると感じた。個人制作の場合と異なり他のメンバーとのコミュニケーションが完成作品に大きく影響を及ぼすはずである。そこで、グループワークを通じ、授業の中に、企業に向けてのプレゼンテーションやディスカッションの機会をより増やしていくこととする。

② 柔軟性と適応力

ファッション業界は常に変化し続けているため、トレンドや市場の需要変動に敏感に対応できる柔軟な思考と適応力が求められる。そのためには、常に新しい情報やスキルを学んで的確に対応する能力を身につける必要がある。自ら動くことで得られる市場の動向とトレンド性、直接手で触れなければ感じとることの不可能な材料の特性、工場技術者や職人さんからの最新設備や技術に関する情報の入手。これらの情報を手に入れるためにはコミュニケーション力は絶対的に必要である。このようにして得た情報を各グループ内で発表し、意見交換を行なうことによりコミュニケーションの果たす役割を深く理解できる。話し合いを重ねることで、たとえ僅かずつであってもグループでモノを作ることの面白さや楽しさを感じ、少しずつでもより良い作品にしたいという意欲が持てれば強制しなくても自然にメンバー同志のコミュニケーションが活発になるであろうと考えるからである。

③ デジタルツール

フォトショップ、イラストレーターのソフトを自在に使いこなせるスキルが求められている。さらにコロナ禍においてオンラインへの移行や EC 部門で生かせるスキルも当たり前の時代となっている。このことを踏まえ、デジタルデザインワークの授業の中でも、デジタルの領域に関する知識やスキル等の徹底的な学修を導入し、今年度は特にファッション市場におけるデジタル技術の活用（EC 部門）の強化を図っていきたいと考えている。

企業外部評価において抽出されたポイントを整理すると、本コースとして以下の7項目が重視される。指摘ポイントについて現状と改善策を以下にまとめている。

- ① 実社会想定のコミュニケーション能力の醸成
- ② 協働のための情報共有能力・プレゼンテーション能力
- ③ 仕事活用度の高いイラレ、フォトショップ、エクセルなどのPCスキルの醸成
- ④ 被服の基礎知識・製造のプロセス・流通・コストなどの知識習得
- ⑤ ブランドコンセプト、テーマ等～実売までの企画力とそのプレゼン力
- ⑥ 連携企業と人起点の触れ合い（講演会、勉強会等）
- ⑦ 流通・商業における販売論等の消費者と身近な川下の分野の学習強化

以上7つのポイントについて、現在の授業内容における対応範囲確認と授業改善を考察していく。①、②、③、⑤については、「産学連携プロジェクト」を中心としたコース構成科目を通じたアクティブラーニングの機会や実企業との接続性も多く、相応の対応が出来ている。今後は更に授業内容のアップデートを積み重ねていきたい。また本コースではコース×学生によるビジネスコンテストや学会活動を通じて③、⑤の機会創出を図っており、今後より一層の強化を図っていく。具体的には「ブランドマネジメント論」を通じて市場性～ビジネスプラン構築までの能力向上を全員参画型にて図り、積極的にコンテストへの参画を実施していく。⑥については協力企業を通じてゲスト講師来校時に企業人×学生のコミュニケーション時間の確保を行う。④については、「プレゼミ」と「新製品開発論」の授業内の一部にプログラムを導入し理解促進に努めていく。⑦については、アパレル企業へ就業を目指す学生が多いコース特性もあり、従前より強化を図っている。今後は「販売論」「販売論上級」を通じて、より現代的かつシーン想定による接客ロールプレイングの導入や販売現場の学習機会を組み上げていく。

本年度の外部評価で示された指摘項目については相応にカバー出来ている、あるいは改善進行中となる指摘箇所が多く、改めてコースの目指す方向性との整合性を再確認出来るものである。一方で、それらの達成度については未だ十分なものとは言えない。今後は、それぞれの内容の深化と定着化を行う仕組み作りが必要である事を認識させるものである。加えて本年度の企業外部評価を総括すると「人としての基礎作り」の大切さが浮かび上がる。今後は実社会が希求するの「人創り」について考察・検討を図りながらコース特性の浮かび上がるリテラシー構築を目指し、引き続き改善努力を図っていきたい。

●企業様からのご意見・全体を通して

企業12社の人事担当者の方から貴重なご意見をいただき、本学の今後の教育の方向性で必要な点がいくつかあった。企業の必要な人材として、専門性のスキルに加え、基本的な人間性、社会常識や礼儀を重視するというご意見をいただき、とりわけ、コミュニケーション能力が重要というご指摘が多かった。コロナ禍を経て以前の日常が戻りつつも、非接触を強いられる3年間を過ごしてきた若者世代は、対面でのコミュニケーション能力に弱さを感じる。マスク生活で人間の表情から敏感に感じ取る機会も少なかったと推測されるが、アパレル業界は消費者に直接販売をするビジネスであり、今後の重要な課題として捉えている。また、商品企画の教育をしていく際にビジネス視点も取り入れることを期待されていた。大学教育では個人の作品を作り上げることが最終目標となるが、企業では個人の能力以上にチームとして作りあげる能力と、最終目標に至る柔軟なコミュニケーション能力が必要かつ重要である。

●コース運営の中での改善策

流通イノベーションコースはビジネス系のコースであるため、講義系科目の比率は高い。ここ数年のイレギュラーな社会生活の影響か、声を発して意見を言える学生が減少している事は否めない。意見を言えない学生が多い中で、現在実行予定でいるのは、講義で聞いた内容への意見をすぐその場でGoogleフォームに入力させる。授業内の緊張を生むこと、それを投影して意見交換をさせると会話が活性化するメリットがある。前期に試験的に実施したのが、良い結果と効果が見込まれた為、数科目で実施していく計画である。

チームで協働して消費者に直接接点をもつアクティブラーニングとして位置付けているイノベーションゼミの産学連携「ネットショップ運営」は来年度も続行する予定である。消費者ニーズに応えるブランドのコンセプト作り、原価計算により「売れて利益が出る価格」設定までの実践は授業内で時間を多く取り入れていき、消費者の空気を読むという訓練にしていく。また各自の役割分担を明確化し採点まで繋げていきたい。商品企画からSNS運営、ネット販売、分析までの実体験の結果導入を3年ゼミから4年ゼミへスムーズに繋ぎ、個人の専門性ある就職意識を高めたいようにしたい。

デジタルスキルの充実が今後さらに必要となると同時に、生成AIの取り扱いについてのご指摘もあった。生成AIはコースのゼミでも実験的に数回導入する計画がある。学部としては、2年必修科目のデータサイエンス論の中で、15回中1回を「AIに関する倫理」として扱っているが、ゼミでも「AI倫理」について慎重に扱いながらデジタルファッション教育を進め、学生の視野を広げていきたいと考えている。

アパレル業界を目指す若者の減少と人材不足のご意見も複数あり、企業と教育機関との連携として、就職部と相談をして希望の企業様に授業に入っていただく事も検討している。

#### 企業側のご意見

学生が身につけるべく資質・能力として

- ・コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力
- ・協働のための情報共有能力や協調性などの対人能力
- ・論理性、基礎学力、広い視野、行動力、積極性、挑戦心を持っていること、
- ・新しい流通との連携柔軟性や適応能力
- ・考え抜く力、問題・原因・対策などや仮説検証などを行い分析するなどの力
- ・自主性・独自性・協調性・コミュニケーション能力・感性
- ・英語など語学力

#### 現状と考察

身につけるべき資質・能力について全社が大きく注視しているのがコミュニケーション能力である。

コミュニケーション能力を高めるために必要なことは、まず自分が何を、どう考え、相手にどう伝えるかだと考え、衣装表現の学生は自分のデザインや制作する作品について担当者が納得するまで何回も自分の意見や考えを徹底させ理解力を深めている。授業中に毎回イメージデッサンを描きデッサン力だけでなく、それを皆の前でプレゼンテーションすることで相手に自分の想いを伝える力が構築できると考える。主体的に自分で考え判断する力をつけるためにリサーチやサンプル制作など学生が主体で進める方法をとっている。また卒業企画においては、情報共有能力や協調性などの対人能力を養うためにグループ制作を行い、学生全員で制作する演目を決めそれぞれの作品についてコミュニケーションを行う。2、3年生に関しては同じテーマで作品を制作し出来上がったものが全て異なる事で「多様性」について学ぶ。この様にシンプルであるが回数を重ねる事でコミュニケーション力やプレゼンテーション力、自主性、協調性が少しずつ身に付いてくるのが見え、これからも継続していきたいと思っている。学外研修では実務の経験をすることで、行動力や挑戦心が出てきている様子が見られ、これをより強化していきたい。

これからのグローバル化の世の中では英語などの語学力は個人的には必要だと考える。



【企業からの意見】※企業側が採用する人材に求めるものとして個人的に印象的だった意見を書きだします。これらはどの職種にも共通するものと感じます。

- ① あらゆるコミュニケーション能力
- ② ファッションを軸としたあらゆるビジネスに関心を持つための広い視野
- ③ 時流を捉える力、ファッション以外の分野への幅広い興味
- ④ 柔軟性や適応力
- ⑤ 読解力・思考力・ロジカルシンキング
- ⑥ 好奇心・情熱・行動力

【考察】

企業から求められているものは、学生たちを見ていて、私自身が「プロを目指すのにあたって足りないと感じている部分」と合致します。ですが、それは本校の学生に限らず、現代社会の若者全体にいえることであり、海外在住の人と話すと、世界全体のテーマであることを感じます。ですが一方、SNS や YouTube を含めたネットの発達により、積極性のある若者にとっては「情報収集」「自己発信」の手段は増えていて、個人差は広がるばかりと感じています。

【現状】

オムニバスの授業では、一人一人が全員と対面して「相手の魅力を伝える」ワークを行うことで、「スタイリストにとってのコミュニケーションの基本」を体験させています（体験後のレポートによると、このワークは学生たちからとても好評を得ています）。

スタイリング演習Ⅰでは、社会とファッションの関わりを学べる時代ごとの映像を視聴させ、手書きのレポートを書き、フィードバックすることで、③時流を捉える力、ファッション以外の分野への幅広い興味、⑤読解力・思考力・ロジカルシンキングを養っています。

スタイリング演習Ⅱ、Ⅲでは、ペアを組んで行う撮影実践や、ハイブランドのショップに行き販売員にリサーチする課題を通して、①コミュニケーション力を養い、また、写真集や雑誌について学ぶ授業を通して、②ファッションを軸としたあらゆるビジネスへの視野と興味を広げています。

【今後に向けての改善案】

表現学科は学生数が少ないため、学内のコミュニケーションだけでは、積極性を養いにくい面が多分にあります。コロナを考慮する縛りも解けてきたこれからは、学外演習を含め、学生たちが外部と関わりを持つことで、受け身ではなく、能動的に人とコミュニケーションすることへの自信に繋がる授業を行ってゆきたいと考えています。

- ① 是非身につけて欲しい資質・能力：時流を捉える力。そのためにはファッション以外の分野にも幅広く興味を持ち、知識に貪欲になっていただきたいと感じます。  
**改善点**：ファッション以外にも興味を持ち、貪欲になるように指導する。VMD演習Ⅱでは授業の初めに学生とミーティングを実施。自分の目で探すマーケティングを主軸に、新しいファッション、スタイリング、カラー、髪の毛の色、コーディネート商品などファッションの流れを学生と情報を共有し討論しています。ファッション以外に関してライフスタイルも含めカルチャー、食などあらゆる分野まで踏み込んだミーティングを実施します。
- ② 是非身につけて欲しい資質・能力：・ファッションに対する興味、好奇心・柔軟な思想、利己の思いだけでなく他己の思い・行動力、・消費者の不便を解消しようと思う気持ち・子供の成長やライフスタイルへの関心  
**改善点**：消費者の不便を解消しようと思う気持ちや不便を解決する商品開発は授業の中に取り込んでいます。不便を解消する商品開発は、VMD演習の中でも必要な項目です。例えば、撥水加工、防虫加工、UV加工、接触冷感などの暑さ対策素材など現在、企業が販売している素材を学ぶことや、脚長効果、着やせ効果があるなど、今、消費者が必要な素材を含め商品に関して学びます。
- ③ 基本的な事ではありますが、販売員としてお客様からの第一印象というのはとても大事だと考える為、まずは自分から笑顔で挨拶ができる事です。  
**改善点**：笑顔に関して人としての基本です。ファッションは人を幸せにする効果があり、微笑みは嬉しい時にでる表現です。授業の中で実践していることは、着ている服、色、髪型など良い箇所を褒めています。学生は褒められることで笑顔になり、幸せな気分になることで笑顔が日常的にできるように指導しています。
- ④ 仕事で活用するイラレ、フォトショップ、エクセルなどのPCスキルは必ず使用する為、どの学生にも勉強をしてきて頂きたいと思います。  
**改善点**：イラレ、フォトショップは先生を招いて指導しています。エクセルは提出課題の中で使えるようにしています。イラレ、フォトショップでは単品板絵、スタイリング、売り場の設計図、ポスター、ポップなど各自で作成できるスキルが身に付きます。
- ⑤ 過去の歴史を知る事も大切ですが、学生たちはこの先を作り上げていく世代なので、先を見据えた知識の習得が必要です。また、卒業制作に充てる時間も勿体なく感じます。その分、視野を広げる為の授業を行う事で、グローバルに働ける学生の育成が出来ると思います。  
**改善点**：視野を広げる知識は、VMD演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲでファッションの基礎をしっかり学びます。就職後に向けてファッションの知識が分かっているならば、先を見えて応用できる能力が身につきます。将来どのようにファッションが変革するのか視野を広げるためのマーケティングを実施し、応用できるように指導しています。

ファッションショーとイベントの制作は、クリエイティブなスキルと組織力が必要な業務なので、学生たちにファッション業界やイベントプロデュースに関する知識と実践的なスキルを教えることは、彼らの将来のキャリアに大きな影響を与える。

ファッションショーとイベントの制作を教える際に考慮すべきポイントは以下のとおり。

**ファッション業界の知識の提供:** ファッション業界の歴史、トレンド、ブランド、デザイナーなどについての基本的な知識を学生に提供して学ばせる。これにより、業界全体の背景を理解し、クリエイティブなアイデアをよりコンテキストに合わせて開発できるようになる。これまでコレクションのレポートには通り一遍の感想がほとんどで、一步進んで自分のアイデアを織り込んだ建設的なレポートを作成させる。

**デザインと創造性の促進:** 学生たちにファッションデザインの基本を教えるだけでなく、クリエイティブなアプローチや発想力を刺激する方法も提供する。アート、文化、自然などからインスピレーションを得て、新しいアイデアを生み出すプロセスを学ばせる。ファッション以外の知識から学ぶ重要性を教え、音楽、映画、美術等に関する考察を授業に盛り込む。

**イベントプロデュースの基本:** ファッションショーとイベントのプロデュースにおける基本的なステップとプロセスについて教える。予算管理、会場選定、スケジュール作成、プロモーション戦略など、イベントの成功に欠かせないスキルをより具体的に学生たちに伝える。

**チームワークとコラボレーション:** ファッションショーとイベントの制作は多くの人々との協力が必要であるから、学生たちに効果的なチームワークとコミュニケーションスキルを育む機会を提供し、現実のプロジェクトに向けた準備を学ばせる。

授業中のショーの制作はそのままチームワークとコミュニケーションスキルを身につけることから自主性や協調性をより強化したものにしていく。

**技術とデジタルツールの活用:** イベント制作にはデジタルツールやソフトウェアが欠かせないので、CAD ソフト、プレゼンテーションツール、プロジェクト管理ツールなどの使用方法を1年次2年次から学び、学生たちが効率的に作業できるようにサポートする。

**実践的なプロジェクト:** 理論だけでなく、実際のプロジェクトに取り組む機会を提供して実践的な経験を積ませることが重要なので、学生たちが自分でイベントを計画し、実際に運営する体験を通じて、リアルな課題に対処する力を養うことが必要になる。

ショープロデュースとしては大学祭が一番の機会かと思われるので映像・メディアクラスとのコラボでより具体的なショーが制作できたら実践的なプロジェクトに繋がる。

これらのポイントを考慮しながら、学生たちにもっとファッションショーとイベント制作の魅力を伝え、彼らが業界で成功するための強力な基盤を築きたい。

担当講義:	1 年前期	服飾表現概論
担当演習:	2 年前期	服飾表現演習 映像・メディア表現 3 回
	2 年後期	映像・メディア表現 I
	3 年前期	映像・メディア表現 II
	3 年後期	映像・メディア表現 III
	4 年前期	卒業制作企画(映像・メディア表現)
	4 年後期	卒業制作(映像・メディア表現)

担当している授業に言及した評価はなかったが、企業側の求める人材に対してのいくつかのキーワードが見られた。

- ① 「コミュニケーション能力」
- ② 「ロジカルシンキング」
- ③ 「デジタル領域でのスキル」である。

小生が担当する「映像・メディア表現領域」での演習等でも上記のキーワードに関する演習指導は可能である。

来期からはシラバスにも上記のキーワードを記載し、それらの領域を意識して演習指導を行いたい。

具体的には、2 年後期「映像・メディア表現 I」及び3 年前期「映像・メディア表現 II」のシラバスに、「他者に理解してもらうための TV 番組企画書/提案書の作成」、「ロジカルな番組構成とは」、「デジタル動画編集ソフト演習」の項目を加え、講義/演習を行いたい。

特にデジタル領域については、最前線の現場で活躍するデジタルクリエイターをゲスト講師として招き、日々進化しているデジタルクリエイティブの現場を紹介/解説してもらおう。

## 入学者受け入れについて

今後のアパレルの人材育成に向けてどのような人材を受け入れるべきか、そのための方策について、以下のように様々なご意見をいただきました。

- ・ファッションに対する熱意や、この業界への希望、期待をしっかりと持っている人材、またそれを育てることのできる人材の受け入れ。
- ・明確な職種に限定しないでファッションを仕事にしたいと思える人材。
- ・ファッションが好きと言うのは全てにおいての大前提で、その上で「何がしたいか」という明確な意思がある人材。
- ・時代や環境の変化を楽しめる人材。
- ・人に興味がある人材。コミュニケーション能力をもった人材。
- ・他国の人と積極的に交流して多様性を身に付けた人材。
- ・基本を正しく受け入れる素直な人材。
- ・ファッション・オシャレが好きという気持ちなどの原動力となる目標や思いをもった人材。
- ・新しいアイデアを生み出せる人材を育成していくためには、少しでも服に興味のある人材の受け入れ。

本学のアドミッションポリシーは「学部の教育内容に強い関心と学習意欲を持っている人」「優れた創造性や豊かな個性をもっている人」「自己認識や表現ができ自己実現への意欲が高い人」です。言葉の表現は違えども企業の方たちが受け入れるべき人材と合致していると思います。

2024年度入試では、本学が求める人材をより発掘しやすいと同時に入学希望者にとっても自分を表現できる受験方式として総合型選抜を見直しました。総合型選抜Ⅰ期ではショッピングリサーチや美術館・博物館見学などにより目で見て感じた体験をレポートとしてまとめる「体験レポート方式」、作ることが好きな人向けの「制作方式」、部活動や趣味、学校での探求学習等何かに熱中して自ら課題を発見し探求した経験を活動ファイルにする「自己探求方式」の中から自分の得意とする方式で出願しプレゼンテーションで自己アピールする試験方法です。その他総合型選抜Ⅱ期・Ⅳ期では、面接が苦手な人向けの「小論文方式」の総合型選抜入試、Ⅲ期では、杉野出身者が身近にいれば推薦してもらう「同窓生推薦方式」を実施し選抜方法を多様化しました。

また、「この窮屈な時代の中でも、受け身にならず自由にファッションを楽しんでいる方を迎え、その方にビジネスマインドと専門性を身につけることができれば、業界にとって大変有意義になるのではないかと思います。そのために SNS 上で自分のコーディネートや世界観等を公開している方については、直接 DM を送るなどしても良いのでは」とのご意見がございました。このご意見は、まさに本学が求める人材であるとお思いますので、新たな学生の発掘方法として学内で検討してそのような人材に積極的にアプローチしていきたい。